

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成29年度農作物病害虫発生予察情報について

平成29年度農作物病害虫発生予報及び月報を発表したので送付します。

平成29年度農作物病害虫発生予報第1号

平成29年5月1日
徳島県

I. 普通作物

早期水稲

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 4月後半の巡回調査では、発生圃場率が20.0%で、平年(9.3%)に比べやや高いが、本田生息虫数は0.4頭で、平年(0.7頭)並の発生である。

(2) 4月27日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生状況に注意し、育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には、薬剤を水面施用する。

(2) 根腐れしやすい水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け、根を健全に保つ。

II. 果樹

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 4月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が1.3%、発病葉率が0.0%、発病果率が0.0%)。

(2) 平成28年9月前半及び10月前半の巡回調査では、発病葉を認めていない(平年同時期も発生を認めていない)。また、平成29年3月中旬の芽基部の調査では、発病を認めていない(平年同時期は発生圃場率が8.8%、芽基部発病率が0.2%)。

(3) 4月27日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 防除暦に準拠し、初期防除に努める。

(2) 開花後から約3週間の間に降雨が多い場合、さらには、5～6月が低温多雨の年に多発しやすい。

薬剤防除適期は、開花前後(4月上～下旬)、摘果期(5月上～中旬)、梅雨期(6月下旬～7月中旬)及び収穫後(10月中旬～11月上旬)である。

赤星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 4月後半の巡回調査では、発生圃場率が50.0%、発病葉率が3.1%で、平年(31.6%、4.5%)並の発生である。

(2) 4月27日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) ビヤクシン類からの病原菌(小生子)の飛散ピークは過ぎたと考えられるが、5月上旬頃まで飛散する可能性があるため、防除暦に準拠し、防除に努める。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年並

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 2016年度の勝浦町における予察灯誘殺数は、チャバネアオカメムシでは8月第4半旬までは平年に比べ少なく推移したが、9月第2半旬及び10月第1半旬に急増し(図1)、極早生温州ミカンやカキ等で被害も認められた。また、ツヤアオカメムシでは、8月第5半旬までは平年に比べ少なく推移したが、8月第6半旬以降増加し、10月第1半旬に急増した(図3)。上板町における予察灯誘殺数は、チャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシともに8月第4半旬までは平年に比べ少なく推移し、9月第1半旬頃にやや誘殺数が増加したが、調査期間を通じてほぼ平年並～やや少ない誘殺数で推移した(図2、4)。

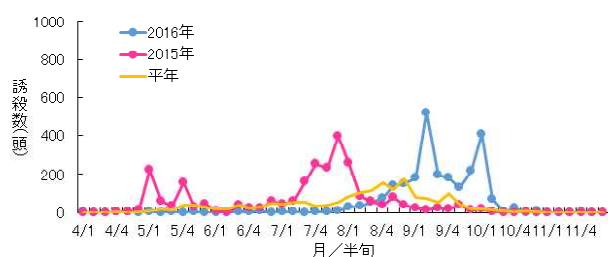


図1 予察灯によるチャバネアオカメムシの誘殺数推移(勝浦町)

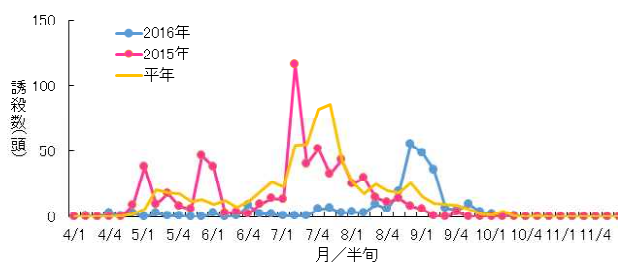


図2 予察灯によるチャバネアオカメムシの誘殺数推移(上板町)

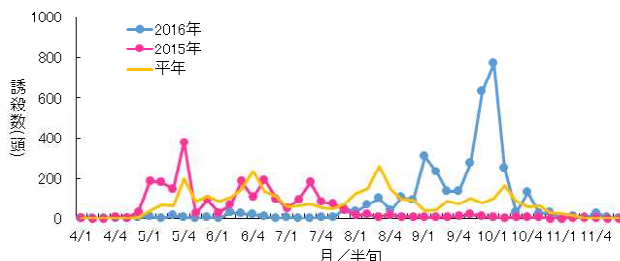


図3 予察灯によるツヤアオカメムシの誘殺数推移(勝浦町)

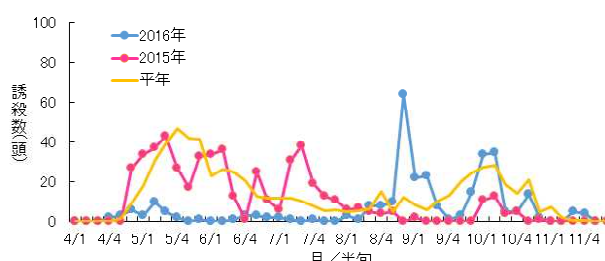


図4 予察灯によるツヤアオカメムシの誘殺数推移(上板町)

(2) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、7地点で越冬を確認、越冬成虫は2.5頭/m²であり、平年(越冬成虫数は1.4頭/m²)に比べやや多く、前年(調査地点数は11地点×2か所、成虫確認地点数は6地点、越冬成虫数は0.4頭/m²)に比べ高い越冬密度であった。

(3) 今春の予察灯調査においては、勝浦町では平年(4月25日)より1日早い4月24日に、上板町では平年(4月25日)より2日早い4月23日にツヤアオカメムシの初誘殺を確認した。なお、4月第1半旬か

ら4月第5半旬までの誘殺数は、平年並で推移している。

(4) 4月27日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果樹園周辺の雑木林(サクラ、キリ等)から成虫が飛来するので、園内を巡回し、飛来を認めたら早急に防除を行う。

(2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。

(3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏ネギ

さび病

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや遅い

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 4月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が5.3%、発病株率が0.5%)。

(2) 4月27日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 肥料切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。

(2) 発生前または発生極初期から、定期的に薬剤を散布して予防する。

(3) 罹病葉を圃場に放置すると伝染源となるので、速やかに圃場外で処分し、病原菌密度の低下に努める。

ネギアザミウマ (5月1日付けで注意報発令)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

(1) 4月後半の巡回調査では、発生圃場率が100%、葉の被害度は13.1で、平年(44.9%、2.6)に比べ高い。

(2) 4月27日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2) 被害葉は発生源となるので、圃場周辺に放置せず、速やかに処分する。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年並~やや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 4月後半の巡回調査では、発生圃場率が100%、葉の被害度が5.2で、平年(86.6%、4.5)並の発生である。

(2) 4月27日発表の1か月予報では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多いと見込まれている。気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 播種時又は定植時に粒剤を土壌処理し、被害発現を遅らせる。

(2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(3) 被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

(4)春から夏にかけて発生が多く,特に5～6月が少雨の年に多発する。

IV. その他

- 1)薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し,周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2)水田に薬剤を使用したときは,7日間以上止水する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発 生 量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報,発生状況,防除法等をお知らせしています。